

	年	月号	編集人 発行人 編集担当・編集委員	発行所 発売所	主なできごと
	1924(大正13)	1月号 5月号 11月号	編集兼発行人 慶應義塾内 柳澤君松 (この号のみ編集兼発行人 慶應義塾内 三田文学会)		<ul style="list-style-type: none"> 三田文学講演会 (名古屋にて) カント記念号 川合貞一、島原逸三、小林澄兄 ほか 10月号ごろ、塾監局より「三田文学」の休刊が提案される。
	1925(大正14)				<ul style="list-style-type: none"> 11月水上邸にて第一回「水曜会」。 復刊が協議される。
発 展 期	1926(大正15・ 昭和1)	4月号 復刊 9・12月号 11月号	編集兼発行人 慶應義塾内 井汲清治 編集担当 勝本清一郎 編集委員 水上瀧太郎、 久保田万太郎、井汲清治、 南部修太郎、西脇順三郎、 小島政二郎、水木京太、 石井誠、横山重 (編集担当勝本清一郎の名なし、 編集後記勝本と記載)	慶應義塾内 三田文学会 春陽堂 慶應義塾内 三田文学会 友善堂	<ul style="list-style-type: none"> 1月、復刊報告講演会が三田の大講堂で。 4月号復刊第1号、9名の編集委員と編集担当勝本清一郎ではじめた。主幹は空位。 復刊目次：水上瀧太郎、加宮貴一、久野豊彦、木村庄三郎、南部修太郎、永井荷風、野口米次郎、戸川秋骨、小泉信三、西脇順三郎、ワインズ、石井誠、井汲清治 ほか。 160頁 火曜会復活、水曜会開催記録の記載あり 5月春季大講演会。 ヨネ・ノグチ詩生活30年記念講演会。 秋季大講演会 新三田派の新人たちが目次をつくる。
	1927(昭和2)	1月号 2月号 9月号 12月号	(編集担当勝本清一郎 の名復活) 編集兼発行人 慶應義塾内 井汲清治 編集担当 平松幹夫		<ul style="list-style-type: none"> 石田新太郎追悼号 芥川龍之介追悼号。水上瀧太郎、平松幹夫、日夏耿之介、蔵原伸二郎 ほか。
	1928(昭和3)	1月号 2月号 4月号 5月号			<ul style="list-style-type: none"> 佐藤春夫「酒、歌、煙草、また女」 井伏鱒二「鯉」 復刊2周年記念号 石坂洋次郎「キャンベル夫人訪問記」、井伏鱒二「たま虫を見る」